

I-1 七ヶ浜町花渚浜地区

2012年2月22日(水)

報告者名	川村 清志	被調査者生年	1942年(男)
調査者名	川村 清志	被調査者属性	米穀店、レストラン経営、七ヶ浜町町会議員
補助調査者	兼城 糸絵		

生活史

話者は、昭和18年、花渚に生まれる。

七ヶ浜町町議員を務める。議員は5期にわたって当選し、現在は議長を務める。また、地元の鼻節神社の氏子総代長でもある。

氏子総代になったのは、議員になったのは同じ年で、今年で20年ほどになる。総代長になってからは、5、6年になる。

話者家は、海沿いにご実家と娘さんの家、弟さんの家があったが、全て流された。現在は、七ヶ浜町内の内陸の住宅地、汐見台の米穀店(クリーニング店)、兼住居に在住している。おなじ汐見台にレストランも経営している。娘さんは、多賀城市内に避難している。

花渚浜区について

花渚では財産価値のあるものは海沿いに多かった。その多くが津波に呑まれた。

花渚ではもとの浜近くに家を建て直すものいる。花渚では地区を離れると漁に参加できない規則になっている。そのため、「もぐり」を続けようとする人たちは、自分の土地に戻る傾向にあるという。その一方でサラリーマンは出て行く傾向にあるという。ただ、全体として七ヶ浜町の人口は減少しないだろう。

漁業について

花渚には、もぐり(くぐり)の組合がある。潜水してアワビやウニを捕る。毎年5月から8月(7月の末かも)にかけて漁が行われる。(正式名称はわからないまま)

素潜りは現在でも盛んな漁である。毎年5月から7月の終わり頃まで行う。もぐりは収入がいうえに、余暇の時間が比較的あるので、若い人がついでけっこうやっている。

12月と1月は海のうえから長い棒でひっかけてとる漁が行われている。

ノリは震災後は、3軒の家が共同で再開している。

震災について

津波は来るのに時間がかかった。花渚まで到達するのに1時間5分ほどかかった。しかし、一端来ると、なかなか波は引かなかった。一波は一度少し引いたが、そのあとはなかなか引かなかった。

花渚地区で、1人、山形からきたお嫁さんがいた。赤ちゃんを抱いて浜の方に逃げてしまった。いつも浜には人がいるのでそちらのほうが安心だと思ったのだろう。それをおじいちゃんが叱って、山の方に連れて行った。おじいちゃんは94歳になる。

津波がくるまでに時間がかかったため、一度逃げた人が、また、家に物を取りにいっているときに津波にあって亡くなった人が多かった。着の身着のまま逃げていたので、少し余裕があると上着やら大事な物などのことを思い出してしまう。

町には1,000人分の食料を備蓄していたが、一気に600人が逃げてきたので、すぐに備蓄が底をついた。

話者家では汐見台にレストランをしていたので、3日間だけ、仕出しをおこなっておにぎりをふるまった。日中は500人くらいになるので、昼ご飯のときにおにぎりを作った。

避難地区には1週間くらいしてようやく食料がくるようになった。

花渚のお寺は、昨年立て替えたばかりで避難所になっていた。しかし、津波が押し寄せてきて、ここでは駄目だということで、幼稚園バスで、さらに上まで逃げたが、波がひかずに孤立してしまった。その後、自衛隊が救助に来て、ヘリコプターのピストン運転で救助をおこなった。

津波からの船の避難

震災の時、港の船のうち、5艘ほどが沖に避難した。津波が来たときには、ものすごい波が5、6回きた。ドーンとあがって垂直に落ちるような感じだと言う。昔の木造船ならもたないだろうが、いまはプラスチックなのでなんとかもった。

震災のあとに塩竈の方から、物資のはいったコンテナが流れてきた。船のなかで1泊しても、がれきだらけで港に戻れなかった。そこで、コンテナのなかからあふれてきたラーメンやらを拾って食べていた。ようやく、地区の裏側に回って船を浜につけて戻ってこれた。コンテナからはジント（酒）が百本以上も流れてきたという。そのかわりに各家にあったタンス預金も、全て流された。

鼻節神社は、少し高いところにあるため、津波の被害は受けなかったが、社務所はほぼ全壊し、石の灯籠なども倒壊した。

震災後のボランティア

花渚には2つほどボランティア団体がきたようである。

アメリカからも国際村の関係で、世界で3番目に大きなボランティア団体がきた。

名古屋にある笹川財団のボランティアも来た。

ボランティアがいつまでもいると慣れてしまう。被災した人が何もしなくなる。

多いときで4、500人のボランティアがきていたと思われる。震災当時は（汐見台にある）隣のお寿司屋が毎晩にぎわっていた。ボランティアが宴会しにきていたようである。

社史について

神社の社史、以前は昭和43年にだしていたが書き下し文のような読みにくいものだったので、今回、新たに編集し直して、読みやすいものを作った。現在は、パンフレットのようなもので

きている。

鼻節神社について

宮司は、A氏。元は地元にもズヤさんという人が祭礼を仕切っていた。約20年前に亡くなったので、その後、柏木神社（多賀城市）の宮司が祭礼を行うようになる。

宮司が存命の頃は、漁師からもらった魚をお裾分けをしてもらったこともある。

祭神は猿田彦とされるが、いくつかの異説も紹介されている。

神社の行事

元旦祭（1月1日）元旦祭には、外からの人が多い。多賀城市などの駅に広告をだしてからという。

トンド焼き 1月14日 これは表浜で行われる。海水浴場で消防団の協力を得ておこなわれる。

4月に氏子総会。第1日曜日。

旧6月28日（今年は7月19日）アワビ祭り（後述）。

旧9月28日 例祭。

毎月、1日、15日は、遠洋漁業（独航船）の奥さんたちが、夫の無事を祈ってお参りに行っていた。

アワビの伝説

昔、花淵に向けて船を航行していたときに急に海が荒れて大時化となった。波に揺られて船底に穴があき、海水が吹き出してきた。皆で水を汲み出したが、それでもみずかさが増す一方だった。そこで船の船頭が鼻節神社の方に向かって手を合わせて必死で祈ったところ、水かさが増すのが止まった。なんとか花淵浜に着いてから船底の穴をのぞいてみると、大きなアワビが張り付いて穴を塞いでいたという。

昔の話と思っていたが、吉田浜の船主の一人が、その父の頃に鼻節神社に助けられたことがあるという。その人は、吉田神社の氏子総代を務められてもいる。毎年、祭りのときにはお神酒をもってきてくれる。ただ、それが具体的にどういう話なのかは分からない。昔、父親が海で助けられたということで、祭りのときにお神酒をもってくれるそうである。

アワビ祭りについて

祭りは旧の6月28日に行われる。

神社の祭りは氏子総代が中心となり、「もぐり」（鼻節でアワビ、ウニなどの潜り漁を行う漁師）の人が実行委員を務め、婦人会に直会などを手伝ってもらっている。前日から準備がはじまる。

神社の沖合にある大根様という岩礁のところまでいき、船でいく。宮司もそれに乗っていく。漁をする実行委員の人たちを中心にらせていくが、女性が乗ることもタブーではない。以前も国際村にきていた女性を乗せたことがあったが、波が高いために船酔いになり、後に述べる肝心のアワビがあまり食べられなかったという。祭りでは、新らしく船を造った人が出ることが多い。現在、祭りの実行委員の中心的な方は、「もぐり」の組合長でもある。

大根さまにつくとアワビの稚貝をまく。神社に戻ると直会が行われ、さらに肝であえたアワビが一般の人にも振る舞われる。多賀城駅などで広告など出したためか、あるいはアニメ以後からか、他所からの観光客が増えている。

この祭りの由来のエピソードをミュージカルのようにして、国際会館で紹介したこともある。鼻節神社の神は船で海からきたとされている。

祭りの継続

祭りは昨年も全て執り行った。「やめようという考えはわかんかった。」

神社では氏子から2,000円ずつ徴収している。この2月に残っている家、約100軒ほどからも出してもらった。各家に伊勢神宮から授かった神棚用の仮のお札を配った。

神社は社務所を中心に破損したけれど、これまで宗教施設ということでなかなか行政からはお金がでなかったが、文化財ということで補償される予定である。

「カンナギ」の聖地

鼻節神社は、マンガやアニメにもなった「カンナギ」の舞台とされるようになった。「カンナギ」がラジオやテレビで放送されるようになってカンナギのファンが訪れるようになった。いわゆる「聖地巡礼」である。

その後、仙台を中心にカンナギ町内会という組織が結成された。その代表は今は2代目に代わっている。最初の人には宮城県の図書館関係の人だった。「カンナギ」の原作者の武梨えり氏は七ヶ浜町の出身である。

国際会館ではキャラのグッズが販売されるようになり、イタ車の展示会も行われた。イタ車とは、アニメの絵などをそのまま車にプリントした「痛い車」のことをいう。

震災後は、神社の清掃活動も行ってもらった。おでんを作って配ってもらったこともある。祭りやイベントの際に出店をだして収益分を寄付してくれる。

かなり地域にとけ込んでいる。もともと「町内会」の人がしっかりした人だったようで、あまり違和感はなかった。昨年「町内会」がクリスマス会をおこなった。在宅の人を集めて商品の抽選などをしてもらった。地区内にも、元旦祭やトンド焼きなど、土日に行事があるときには、参加するようになった。

町や商工会でも、この「聖地巡礼」で町おこしができないか、考えるようになった。話者たちも、その前例である鷹宮神社（埼玉県）に視察にも行ってきた。商工会の方でもカンナギのアニメの歌を着メロにしている人もいる。